

2024年1月15日第158回運輸政策コロキウム（南 研究員）

奥田専務 開会挨拶

皆様こんにちは。

紹介がありました、専務理事で、アセアン・インド地域事務所長の奥田でございます。

本日は、第158回となります運輸政策コロキウムを、ここ運輸総合研究所の会場とオンラインの併用で開催いたしましたところ、大変多くの皆様にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。

私共、運輸総合研究所では、2021年4月に、「アセアン・インド地域事務所」、AIROと略称いたしておりますが、これをタイ王国バンコクに開設致しまして、鉄道、航空、港湾、物流、観光、といったテーマについて「アセアン・インド地域レポート」と称しまして、随時、皆様に情報発信をさせて頂いて参りました。

本日のアセアン・インド地域レポート、テーマは、「東南・南アジアにおける高速鉄道の整備スキームに関する分析」でありまして、AIROの南研究員がバンコクからオンラインにより発表を行います。

テーマであります「高速鉄道」につきましては、昨年10月に、インドネシアのジャカルタ・バンドン間に東南・南アジア地域初となる高速鉄道が開業致しましたが、人口増加と経済発展が続くこの地域においては交通インフラの整備が重要な課題であり、中でも高速鉄道は大量輸送が可能で、且つ、運行の安定性が高く、また環境の側面からも期待される輸送手段となっております。

インドネシア以外にタイやインドでも整備事業が進められており、また、ベトナムやマレーシア・シンガポール等においても整備に関する検討が進められており、この地域における高速鉄道への関心が年々高まっているところでございます。

そこで、本日はまず、東南・南アジア地域で事業化されている複数の高速鉄道事業につきまして、南研究員自身が現地調査を行い、その際に収集を致しました、計画の決定過程や資金調達、建設などの事業スキームに関する情報に加え、それぞれの特徴や課題などを整理した内容を発表致します。

その発表ののち、コメンテーターをお願い致しております、横浜市立大学国際教養学部教授の柿崎一郎先生からコメントを頂戴致しまして、さらにその後、私どもの屋井所長にコーディネーターをお願いし、皆様との質疑応答を含め、今後の高速鉄道整備事業の在り方について参考となる議論を行っていただければ、と思っております。

本日の運輸政策コロキウム、アセアン・インド地域レポートが、ご参加頂きました皆様にとりまして、有益なものとなりますことを期待致しまして、開会にあたっての私のご挨拶とさせていただきます。

本日は、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。